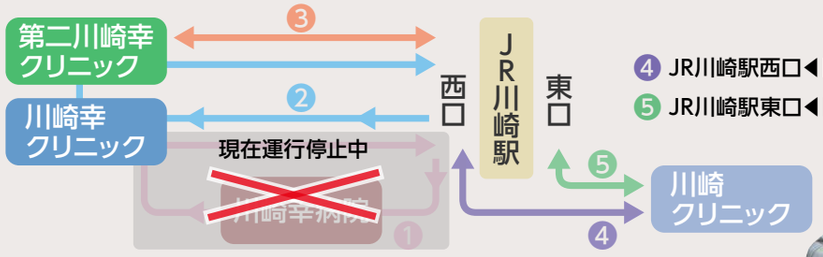
JR川崎駅から各クリニックまでシャトルバスを運行しております、ご利用ください。

バスをご利用の方は、必ずマスクをつけてください。



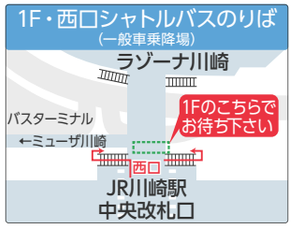
④ JR川崎駅西口◀▶川崎クリニック
⑤ JR川崎駅東口◀▶川崎クリニック

① 現在運行停止中
② JR川崎駅西口▶川崎幸クリニック▶第二川崎幸クリニック▶JR川崎駅西口 循環
③ JR川崎駅西口◀▶第二川崎幸クリニック

シャトルバスは定員9名のワンボックスカーです。

① 巡回バス（現在、運行停止中）

JR川崎駅西口⇒川崎幸病院⇒川崎幸クリニックの巡回コースでは、多くの方が乗り合わせることから、新型コロナウイルスの感染防止のために現在運行を停止しています。



川崎幸クリニック・第二川崎幸クリニック　**定員9名**　川崎クリニック

時	② 巡回ルート		③ 直行ルート（土曜日運休）	
	巡回ルートの運行は月～土曜日、日曜・祝日は運行しておりません。			
	川崎駅西口発	第二川崎幸クリニック発	川崎駅西口発	第二川崎幸クリニック発
8	15 50	35	45	30
9	15 50	05 35	15 45	00 30
10	15 50	05 35	15 45	00 30
11	15 45 50	05 35	15	00 30
12	15 50	05 35		
13	15 50	05 35	15 45	00 30
14	15 50	05 35	15 45	00 30
15	15 45 50	05 35	15	00 30
16	15	05 35		00 30
17		00		00

土曜は運行しておりません。

時	④ 川崎クリニック ◀▶西口		⑤ 川崎クリニック ◀▶東口	
	運行は月～土曜日（祝日含む）、日曜日は運行しておりません。			
	川崎クリニック発 川崎駅西口行	川崎駅西口発 川崎クリニック行	川崎クリニック発 川崎駅東口行	川崎駅東口発 川崎クリニック行
8		15 45		15 35 55
9	00 30	15 45	05 25	15 35
10	00 30	15 45		
11	00 30	15		
12	00 30			
13	00 30	15 45	00 20 40	10 30 50
14	00 30	15 45	00 20 40	10 30 50
15	00		00 20	10
16				
17				

土曜・祝日は運行しておりません。

※ご利用される方々の状況により、到着時間が遅れる場合が有ります。

救急・急性期医療・放射線治療	入院・一般外来	一般外来（内科系・小児科）
川崎幸病院	**さいわい鶴見病院**	**川崎幸クリニック**
TEL:044-544-4611（代）	外来予約:045-581-1417	外来予約:044-511-2112
一般外来（外科系・消化器系）	一般外来・人工透析	一般外来・人工透析
第二川崎幸クリニック	**川崎クリニック**	**さいわい鹿島田クリニック**
外来予約:044-511-2112	外来予約:044-222-9259 透析センター:044-211-6500	外来予約:044-556-2722
人間ドック・生活習慣病健診	企業健診・一般健診	定位放射線治療・脳ドック
アルファメディック・クリニック	**川崎健診クリニック**	**新緑脳神経外科**
予約:044-511-6116	予約:044-511-6116	TEL:045-355-3600

在宅事業部	
在宅医療・在宅看護・在宅介護	さいわい訪問看護ステーション 新川崎居宅介護支援事業所 福祉用具レンタルさいわい かしまだ地域包括支援センター

いま求められる医療をもっと高めたい
社会医療法人財団 石心会

川崎幸病院／さいわい鶴見病院／川崎幸クリニック／第二川崎幸クリニック／川崎クリニック／さいわい鹿島田クリニック／新緑脳神経外科／アルファメディック・クリニック／川崎健診クリニック／石心会グループ在宅事業部
発行責任者：石井 暎禧　編集長：辻田 征男　〒212-0014 川崎市幸区大宮町23-5 コーラルビル　電話：044-511-2266（代）　http://www.sekishinkai.or.jp

石心会グループ
神奈川地区広報誌

あおぞら

特集 9月9日 救急の日
～川崎幸病院の救急大解剖～

2021
8&9

特集

9月9日 救急の日

～川崎幸病院の救急大解剖～

9月9日は「救急の日」です。川崎幸病院は24時間365日絶え間なく救急患者さんを受け入れていますが、「救急」とはどのような所なのでしょうか?「救急」について、川崎幸病院の救急で日夜患者さんと向き合っている救急部副部長の髙橋直樹先生にお話を伺いました。

地域の皆様が安心して受診できる救急医療の提供を

川崎幸病院　救急部副部長
髙橋直樹 医師

救急医療とは

救急外来では、あらゆる症状や病態に対して、応急処置を行うと共に、緊急度の評価と診断を行いながら、必要に応じて各専門診療科へ引き継ぎます。来院される患者さんは多岐に渡ります。持病はもちろん生活環境や価値観、受診動機も様々で、それらの情報が全くない状況で救急搬送されてくることもあります。救急医療は言わば、疾患や臓器に拘ることなく全てを診ること、つまり「人」を診ることだと考えています。難しい言い方をしますと解剖学的（体の構造）、生理学的（体の仕組み）、社会学的（人の環境）に考え、色々な角度から患者さんの全体を診る医療ということです。

また特徴として「検査と治療」を並行して行うことが多いです。救急は「いつ治療をしなくてはいけないか」を見極めることが重要で、特に『脳卒中』や『心筋梗塞』など時間が勝負の疾患の場合もあります。また『大動脈解離』など、今すぐ手術を行わなければ命に関わる場合もあります。その為、川崎幸病院では救急と各診療科が連携を取ることで適切なタイミングで正しい治療を行うことができ、いつでも患者さんが不安なく安心して受診ができる体制を整えています。

24時間365日患者さんを診るということ

川崎幸病院は、「断らない医療」を理念としていますので、満床を理由に救急車を断ることはありません。どのような状況でも可能性を見出し、次の救急の患者さんを万全な状態で受け入れられるよう、医師のみならず、看護師、救急救命士、検査を行う各技師、事務スタッフと様々な職種が一丸となって救急医療に取り組んでいます。

それぞれの役割としましては、医師は診察をし、医学的な判断に基づいて治療をします。救急救命士は患者さんの受け入れから入院、帰宅まで全てをコーディネートしています。患者さんを他の病院に送り届ける場合も救急救命士が行っています。看護師は診療と共に患者さんのケアを担当します。医師と一緒に考え、看護師独自の目線は医師には気づけない点も多く非常に重要です。そして、手続きなどの面を事務スタッフが行っています。

救急では多職種が連携をし、患者さんを受け入れることができるようにしています。そして、さらにレベルアップができるように研修や勉強会も日々行っています。

つい「医師」に目が行きがちですが、決して医師だけでは成り立ちません。各スタッフがそれぞれの職務を全うすることで救急は成立しています。

救急患者さんが病院に到着したら

救急隊から連絡が入ると、当院の救急救命士が迅速かつ的確に情報を収集します。迅速に対応するために、救急医や看護師は、収集した情報をもとに診断や処置に必要な検査や物品を準備し待機します。救急患者さんが当院に到着されたら、すぐに診療を開始するようにしています。問診、診察、検査、応急処置を迅速に行いながら、緊急性があるかどうか、もしくは専門的治療の必要性があるかどうかを判断します。緊急での専門的治療が不要と判断した場合には、救急医が応急処置を行い帰宅となります。一方、緊急に専門的治療が必要な場合や緊急性の高い病態の場合には、各スペシャリストの医師へ連絡を行い入院での治療（病態によっては緊急の手術となる可能性もあります）を行いますが、病態によっては患者さんにとって適切な病院を手配し、当院の救命救急士が転送先病院まで付き添い、直接患者さんの情報の引き継ぎを行いますので、転送であっても安心して移動できるシステムとなっています。

救急と専門科との連携

救急は全身を診て応急処置を行う「ジェネラリスト」ですが、各疾患を専門的に診る「スペシャリスト」の先生達も、川崎幸病院には救急と同じように24時間365日待機しており、緊急の手術にも対応しています。救急医も各科の専門医も、病に苦しむ患者さんを助けたいという目的は同じです。

一言コラム　夏のオススメ

この数年「熱中症」は気を付けるべき夏の病気として多くの方が認知してきていると思います。

気温が高い環境にいることで体温調整を行う機能が効かなくなったり、大量に汗をかき、体内の水分や塩分が失われることが原因で、こまめな水分補給などの対策が重要です。

そして、夏は「脳梗塞」が多くなる時期でもあります。

これは「脱水」で血液中の水分量が不足し血液がドロドロになることが原因となっています。

繰り返しにはなりますが、水分、塩分の補給など基本的な注意点を守って頂くことはもちろんとしまして、夏には「牛乳」が髙橋先生のオススメだそうです。たんぱく質が含まれ、血管内のボリュームがアップすることで暑さに負けない体作りに役立つそうです。また旬である「夏野菜」を食べて体を冷やすことも大切とのことです。

私たち救急外来スタッフは、来院される患者さんの緊急度を評価するとともに応急処置を行いますが、緊急で専門的治療が必要であると判断した場合には、最善のタイミングで最高の治療ができるよう各科のスペシャリストの先生達と連携を取りながら、救急医療に取り組んでいます。

地域で診る救急医療

先程のお話と少し重複してしまいますが、救急診療、応急処置を終えますと、基本的に次のステップとして「入院」か「帰宅」のいずれかになります。「入院」の中には当院に入院をして頂く場合と、患者さんの病態に応じて最適な病院へ入院して頂き治療を継続する場合があります。「転院は嫌だなぁ」と思われる方もいらっしゃると思いますが、川崎幸病院の救急は、地域の救急でありたいと考えています。

いかなる救急も受け入れ、一つの病院のみで患者さんを診るのではなく、川崎幸病院の救急が基盤となり、病態に応じて最適な病院へ。地域全体の中で患者さんを診ることが、これから目指すべき「地域医療」だと思います。

私は医師という役割を担当し、患者さんは患者さんという立ち位置にいらっしゃる。この両者はあくまで対等で、医療を介した「人」同士のコミュニケーションの一つを行うのが病院だと考えています。

重症か軽症かはあくまでも結果論ですので、「おかしいな」や「不安だな」と思ったらすぐに病院に

来て頂きたいと思います。「こんなことで」と思われるのが嫌だと感じられるかもしれませんが、そのようなことはありませんので、頼ってもらえると嬉しいです。

しかしながら、病気の早期発見、予防に努めることも大切です。かかりつけ医を持ち、病気や症状が重篤化する前に受診すること、予防の原則であるバランスよく食べ、適度に運動し、よく眠り、元気でハッピーに過ごせるようになって欲しいと願っています。それでも病気になってしまった時には、それを受け入れる私たちがおりますので、安心して毎日を過ごして頂ければと思います。

私たちが目指すもの

救急外来を受診される患者さんの多くは内科系疾患から外科系疾患など、受診動機は多岐に渡ります。また多くの患者さんは病に対する苦しみや不安を抱えており、何とかして欲しい一心で救急受診されます。どのような疾患であれ、どのような時間であれ、患者さんの不安や苦しむ気持ちに寄り添い応え続けることが、私たち救急部の役割であり存在価値、存在意義だと思っています。

「病気で困ったら川崎幸病院の救急外来を受診するといいよ」そんな会話が幸地区をはじめ近隣地域全体で、当たり前のように聞こえるようになったらいいですね。私たちはこれからも更に進化し続けます。

みんなの健康塾ちゃんねる情報

「みんなの健康塾ちゃんねる」では「救急の日」に合わせて、「川崎大動脈センター医師解説！命に危険が及ぶ急性大動脈解離～突然起こる背中の痛み～」を公開予定です。
髙橋先生のお話にも出てきました「大動脈解離」について詳しく知ることができますので、是非ご覧ください。

私たちの仕事をご紹介します

～川崎幸病院　EMT科～

患者さんの安心と地域貢献への取組み

病院に救急救命士がいるって知っていますか？
多くの方が患者さんの元へと救急車で駆けつける姿をイメージされるかもしれませんが、川崎幸病院にも21名の救急救命士が日夜勤務しています。病院の救急救命士のお仕事について、救急救命士が所属するEMT科の蒲池淳一科長にお話を伺いました。

川崎幸病院　救急部
EMT科　科長
蒲池淳一

――まず救急救命士とはどのようなお仕事でしょうか？

救急車で現場に駆けつけ、患者さんを病院に搬送することが元々の仕事です。医師が不在であっても重症の患者さんに対応できるようにと誕生しました。現場で緊急度・重症度を判断し、適切な医療機関を選定し、その医療機関の医師に引き継ぎます。酸素投与や吸引、器具を使った気道確保など「救急救命処置」も行います。

――救急隊の救急救命士と「病院」の救急救命士の仕事の違いはありますか？

救急隊の救命士は、病院に搬送するまでが仕事ですが、私たちは搬送されてからの調整を行うことが大きな違いだと思います。

救急隊からの連絡を受ける所から私達の仕事が始まります。そして、その患者さんの緊急度・重症度、考えられる疾患、新型コロナウイルス感染症感染の有無、診察室や人員の配置、優先度合、これらを判断し、医師や看護師に伝え、診療のサポートを行っています。

それらに加え、患者さんが当院に入院が出来るのか、もしくは他院に入院して頂くのか、それはどの病院が適切かを調整し、他院に入院となればその搬送も私たちが行います。

――ドクターカーの運用についてお教え下さい

医療機関からの要請で救急患者さんを搬送するドクターカーは3台所有しており、3台が同時に出ることもあります。2012年から運用を始め、これまで2,500件以上の要請がありましたが、これまで「断り」を1件も出しておりません。医師や看護師の協力があるからこそ出来ていることです。

――川崎幸病院・EMT科独自の取組みや特徴はありますか？

近隣の医療施設や企業、商業施設と提携をし、急病の患者さんが発生した際に、連絡を頂ければ私たちが向かって搬送をする取組みを行っています。

地域の方には安心感を覚えて頂き、行政には救急隊の負担が軽減となり、地域貢献に繋がっているのではと考えています。

――地域の方へメッセージをお願い致します

川崎幸病院は理念のひとつ「断らない医療」のもと患者さんを受け入れております。最適な病院に移って頂くこともありますが、その場合は、我々が患者さんにとって最適な病院の選択から搬送まで責任をもって行います。患者さんが病院に来てから、転院や退院をするまでを想定した体制が整った病院ですので、安心して受診頂ければと思います。

さいわい鶴見病院 整形外科 新任医師のご紹介

手術中の須川医師（左）

2021年４月にさいわい鶴見病院に着任した須川 敬医師をご紹介します。

「2000年に医師免許を取得してから約10年は整形外科全般を、2011年からは整形外科専門病院である島田病院（大阪府羽曳野市）で肩、肘関節の診療を担当させて頂いておりました。

肩、肘関節疾患は注射やリハビリ等のいわゆる保存治療で症状が改善することが多いのですが、肩甲骨と上腕骨をつなぐ腱が切れている腱板損傷や、繰り返し肩が外れてしまう肩関節反復性脱臼等では必要に応じて手術治療を行います。また肩肘スポーツ障害では、障害の原因となる下半身体幹、肩・肩甲帯のコンディショニングによりスポーツ復帰を目指しますが、進行した上腕骨小頭離断性骨軟骨炎等手術を要するものもあります。

肩、肘関節でお困りの方は、一度医師にご相談ください」

須川医師外来診療日

■さいわい鶴見病院（予約優先制）
火曜 午後　14:00～16:00
夕診　　17:30～20:00
木曜 午前　 9:00～12:00
外来予約番号：045-581-1417

■川崎幸クリニック（予約制）
水曜 午後 14:00～16:30
外来専用番号：044-511-2112

私の街紹介

～川崎市幸消防署～

人口約17万人の川崎市幸区にある川崎市幸消防署は、区民の安心・安全のために防火・防災活動に力をいれています。「消防の原点は地域にある」がモットーで、消防団をはじめ地域の方々とのつながりを大切にし、地域の協力の元あらゆる災害に直面しても必ず乗り越えられる「安心・安全の街づくり」の一役を担っています。

病院がつくった健康情報サイト

みんなの健康塾ちゃんねる

8・9月の予定から

公式 LINE QR コード

役にたつ医療・健康情報が無料で閲覧できる「みんなの健康塾ちゃんねる」では、聞きたくても聞くことが出来なかった情報や、知っていれば未然に病気を防ぐことができる情報など盛りだくさん！
公式 LINE を登録して、チェックしてみてくださいね！

Pick UP コンテンツ

川崎大動脈センター医師解説！
命に危険が及ぶ急性大動脈解離
～突然起こる背中の痛み～

突然、背中や胸に激しい痛みが起こり、発症後すぐに治療を受けなければ命に危険が及ぶ怖い病気…「急性大動脈解離」。

川崎幸病院　川崎大動脈センター/大動脈外科部長の大島晋医師に突然起こる背中の痛み

「大動脈解離」について詳しく解説してもらいます！ぜひ動画をご覧ください。

8＆9月更新予定コンテンツ

※更新内容は変更になる場合があります。予めご了承ください。

- みんなの健康塾ちゃんねるポケット版8月号
- 【高齢者・シニア向け】
  寝たまま10分で介護・フレイル予防運動
  ～太もも・ふくらはぎ・おしりを鍛えよう！～
- フクスケ脳トレ総集編　Vol.1～Vol.10
- 【認定看護師が教える】大人用おむつの豆知識
- みんなの健康塾ちゃんねるポケット版9月号
- 川崎大動脈センター医師解説！
  命に危険が及ぶ急性大動脈解離
  ～突然起こる背中の痛み～
- フクスケ脳トレVol.11 ～ナンプレ編～
- 【管理栄養士監修】秋に美味しい食材で
  骨力アップレシピ